

平成 22 年 度

事 業 報 告 書

財団法人 横浜市シルバー人材センター

概 況

平成22年度は、財団法人横浜市シルバー人材センターが設立30周年を迎える節目の年となりましたが、長引く景気低迷等による民間企業の受注の減少や公共・外郭団体の競争入札への移行、指定管理者制度の実施等に伴う契約変更、さらには「行政刷新会議」での「事業仕分け」による国庫補助金の大幅削減などにより、極めて厳しい事業運営となりました。

そしてまた、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」の影響等も生じるなど、契約金額については、対前年度比マイナス7%と過去最大の減少となりました。

22年度における主な取り組みでは、当センターの「基本計画2016」及び横浜市と締結している「特定協約」に基づいて、自主的・自立的な経営基盤をより一層確立するため、センター管理職により構成した「事務費率改定・事務事業等の見直し等のプロジェクト」の検討結果を踏まえ、事務費率を7%から10%に改定することとし、発注される皆さまのご理解をいただきながら、平成22年4月から実施しました。

また、21年度から実施している「年会費」制度を推進し、会員の自主的な運営参加等を図るとともに、本部・事務所に「就業相談コーナー」を常設し、一人でも多くの会員に就業機会を提供促進することに努め、「会報誌」等によるセンター事業の情報提供拡充を図りました。

さらには、団塊世代を含めた高齢者の多様な働き方・ニーズに対応した雇用・就業機会等の確保と適正就業を図るため、「ワークサポート情報プラザよこはま」（通称：はまサポ）による就業等に係る幅広い情報の収集・提供を推進しました。

当センターは、平成22年10月1日に設立30周年を迎え、30年間の歩みを振り返るとともに、更なるセンター事業の拡大等を目指すため、設立30周年記念事業を実施しました。

記念事業を開催するにあたり、会員主体による「実行委員会」を設置し、記念事業の企画運営等を行い、市民・発注者・会員等に、共感・共有できるセンターの記念事業として、「記念式典」の開催、「記念誌」の発行、市内主要駅広場等での「ボランティア清掃活動」を実施し、センター事業のPRを図りました。

新たな公益法人制度改革関連法の施行による「新公益法人への移行」については、新制度移行後の定款、評議員選定委員の選任、役員報酬規定等の諸準備を行い、「公益財団法人」への移行認定の申請に向けた取り組みを進めました。

さらなる少子高齢化が加速する中、地域社会の一層の活性化や地域貢献活動を拡充していく担い手として、健康で就業意欲を持つ高齢者が知識や経験を活かすため、シルバー人材センターの果たす役割は、ますます重要になっています。

当センターは、今後も効率的な業務体制の確立と事務事業の見直しに取組み、積極的な事業展開を図ってまいります。

1 事業実績

(1) 契約金額と件数

22年度は、競争入札への移行、指定管理者制度の実施等による契約終了や各団体等の事業費削減の措置としての契約変更等の影響で、公共・外郭団体からの受注が大幅に減少し、「民間」においても、長引く景気低迷等により、19年度から4年連続かつ過去にない最大の減少となり、契約金額が39億2,520万円余、受注件数が53,648件と前年度対比実績の減少となりました。

契約金額では、約2億9,300万円（対前年度比：-7.0%）、件数では733件（-1.4%）の減少となりました。

ただし、福祉家事援助サービスや植木の手入れ、小破修繕等のその他技能・除草など「個人家庭」向けの就業については、発注者ニーズにきめ細かく対応し、迅速・的確な受注諸調整の体制整備を図るとともに、会員への就業促進を行った結果、契約金額1,824万円余（対前年度比：+3.7%）の増加となりました。

次に、受注件数の内容別にみると、「技能」「一般作業」「サービス」の職群は前年度若干の実績増加を示しましたが、契約金額では、横浜市の広報配布業務等の減少により、「渉外」は前年度対比-26.0%となったほか、「技能」の前年度対比+0.7%の微増を除いて、他のすべての職群は、前年度対比で下回っています。

(参 考)

◇発注先別契約実績

発注先	平成21年度				平成22年度					
	契約金額 (千円)	構成比 (%)	受注件数 (件)	構成比 (%)	契約金額 (千円)	構成比 (%)	対前年度 比 (%)	受注件数 (件)	構成比 (%)	対前年度 比 (%)
公共	320,863	7.6	1,766	3.3	206,717	5.3	64.4	1,323	2.5	74.9
外郭	388,141	9.2	2,198	4.0	374,197	9.5	96.4	2,215	4.1	100.8
民間	3,020,372	71.6	25,378	46.7	2,836,974	72.3	93.9	24,559	45.8	96.8
個人	489,073	11.6	25,039	46.0	507,319	12.9	103.7	25,551	47.6	102.0
合計	4,218,449	100.0	54,381	100.0	3,925,207	100.0	93.0	53,648	100.0	98.7

◇職群別契約実績

職群	平成21年度				平成22年度					
	契約金額 (千円)	構成比 (%)	受注件数 (件)	構成比 (%)	契約金額 (千円)	構成比 (%)	対前年度 比 (%)	受注件数 (件)	構成比 (%)	対前年度 比 (%)
専門技術	66,453	1.6	618	1.1	56,772	1.4	85.4	499	0.9	80.7
技 能	443,324	10.5	12,424	22.8	446,361	11.4	100.7	12,435	23.2	100.1
事務整理	178,295	4.2	2,159	4.1	170,881	4.4	95.8	1,938	3.6	89.8
施設管理	891,333	21.1	4,569	8.4	836,029	21.3	93.8	4,421	8.2	96.8
渉 外	543,488	12.9	2,601	4.8	402,129	10.2	74.0	2,123	4.0	81.6
一般作業	1,880,144	44.6	23,567	43.3	1,801,366	45.9	95.8	23,606	44.0	100.2
サービス	215,412	5.1	8,443	15.5	211,669	5.4	98.3	8,626	16.1	102.2
合計	4,218,449	100.0	54,381	100.0	3,925,207	100.0	93.0	53,648	100.0	98.7

(2) 会員数

22年度は、長引く景気低迷等による受注減の影響や年会費制度の実施等により、2,806人が退会したため、年度末の登録会員数は10,688人となり、年度当初の11,333人から645人の減少となりました。

新規登録会員数は、社会経済情勢等の動向や団塊世代を含む高齢者ニーズの多様化等の影響により、新規登録会員は2,129人で、前年度の2,243人に比べ114人（-5.1%）の減少となりました。

登録会員に占める女性会員の割合は、入会促進に努めましたが、21年度と比べ0.3ポイント減少し、30.7%となりました。

センターへの入会動機では、「経済的理由」が38.3%で前年度の43.0%から4.7ポイント減少し、生きがい・社会参加、健康維持による思考傾向が伺われ、「生きがい・社会参加」が26.1%、「健康維持」が23.0%、「時間的余裕」が6.9%となっています。

また、就業率は、多くの退会者がためため67.8%と、前年度の66.2%から1.6ポイント上昇しました。

登録会員が希望する職群（構成比%）の順序は、①一般作業（28.3%）②施設管理（21.9%）③事務整理（14.3%）となっています。

◇過去3年間の推移

項目	平成20年度	平成21年度	平成22年度
会員数（人）	12,068	11,333	10,688
対前年度比（%）	(97.9)	(93.9)	(94.3)
男女比(男/女)	69.0/31.0	69.0/31.0	69.3/30.7
契約金額(千円)	4,482,627	4,218,449	3,925,207
対前年度比（%）	(96.3)	(94.1)	(93.0)
就業率（%）	63.3	66.2	67.8

◇過去5年間の新規登録会員数（単位：人）

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
2,142	1,672	1,708	2,243	2,129

2 高齢者への就業支援の強化

(1) ワンストップサービス「はまさぽ」の推進

前年度に引き続き、団塊の世代を含めた高齢者に対する就業機会の提供や多様な就業ニーズ等に関する情報の収集や提供を行うワンストップセンター「ワークサポート情報プラザよこはま」（通称：はまさぽ）の充実を図りました。

主な取り組みとしては、高齢年者の様々なニーズに対応した働き方・市民活動・起業など、市内で実施されている豊富な情報を収集、利用者の希望に合った事業や機関・団体の情報を紹介しました。特に今年度は、(社)神奈川県シルバー人材センター連合会の「シニア就業支援プログラム」事業と連携し、「はまさぽ」内に、カウンセリングによる相談受付（週2日）を行い、きめ細かな対応で就業機会及び社会参加の推進等を図りました。

【平成22年度実績】来場者： 117名（男性：79名 女性：38名）
サイトアクセス数： 24,101件（月平均約2,008件）

- (2) **一般労働者派遣事業の推進**（神奈川県シルバー人材センター連合会からの委任事務として実施）
 請負・委任や無料職業紹介事業のほかに、高年齢者の多様な働き方に対応した雇用・就業機会の確保として、高齢法の改正でシルバー人材センター事業の特例により認められた一般労働者派遣事業を展開し、新規受注の技術系・事務系分野の職種を中心に開拓するとともに適正就業等の推進を図りました。仕事の内容は、機械清掃、経理補助、駐車場管理等の業務となっています。

◇過去3年間の推移

項目	平成20年度	平成21年度	平成22年度
契約件数（前年度対比）	18件（150.0%）	8件（44.4%）	8件（100.0%）
契約実人員（前年度対比）	41人（178.3%）	21人（51.2%）	20人（95.2%）
契約金額（前年度対比）	12,798,480円（177.0%）	15,560,669円（121.6%）	14,643,346円（94.1%）

(3) **適正就業（コンプライアンス）の推進**

新たに受注した仕事の業務内容や既存の就業先での就業形態（請負・委任等）を適宜把握・検討し、就業実態に即した契約方法の見直し・改善等により、適正就業の取組みを進めました。

また、22年10月に（社）神奈川県シルバー人材センター連合会の「シルバー事業適正運営の基本方針」に基づき、公共・外郭団体・民間企業の顧客先について、適正な就業のための自主点検調査等を実施し、センター事業の適正運営の再徹底と適正就業の改善等に取り組めました。

3 「年会費」制度の円滑な推進

前年度から引き続き、自主的・自立的な経営基盤を確立するための財源確保として、全会員を対象に「年会費」制度（年額：1,200円）を実施するとともに、特に今年度は、センター設立30周年記念事業の実施に伴い会員の自主的な運営参画を推進し、センターへの帰属意識の高揚等を図りました。

また、本部・事務所に「就業相談コーナー」を常設し、未就業会員を中心にきめ細かい相談を通じて、就業機会提供及びホームページによる情報提供（お仕事情報等）の掲載、会報誌を年3回発行し、センター事業に関する情報発信の拡充等を図りました。

4 受注開拓活動の推進

(1) **役職員による受注活動**

長引く景気の低迷等により、事業実績が一段と低下する傾向が予測され、受注開拓や会員増強に積極的に取組みセンター事業を推進するため、21年度に本部・事務所職員による「受注拡大プロジェクト会議」で策定した「受注拡大等の行動計画」により、役職員・会員が一体となった受注拡大に向けた活動の取組みとして、22年10月の横浜市「情報共有推進会議」をはじめ18区役所の高齢・障害支援課長会、こども家庭支援課長会において、個人家庭へのサービス分野等の受注拡大や会員増強に向けてのセンターへの活用促進PRを実施するとともに、各事務所長等による各区役所関係課への訪問・事業説明など受注開拓活動等を行いました。

一方、公共・外郭団体等については、地方自治法施行令改正で認められた特命随意契約による受注や就業機会創出員及び福祉・家事援助コーディネーターと連携を図りながら、役職員による新規・既存の事業所等への訪問受注活動を実施し、受注確保や会員の就業機会の拡大等を図ってまいりました。

(2) 事業推進員活動（就業機会創出員制度：全事務所で6人配置）

受注拡大や会員増強を目的としている事業推進員活動は、22年度も引き続き、国の補助事業を活用して就業機会創出員を配置し、長引く景気低迷等の影響による新規の受注減や既存の顧客からの契約変更・解除等の対応策として、主に受注開拓活動（チラシ配布・訪問）を強化した結果、受注件数、受注金額、就業延実人員については、増加しました。

◇就業機会創出員活動の実績

年 度	訪問件数	受注件数	受注金額	就業延実人員	就業延人員
平成21年度	77,748件	2,355件	136,443,367円	3,947人	27,375人日
平成22年度	106,189件	4,369件	138,421,912円	6,665人	23,138人日

※訪問件数はチラシ配布を含む

(3) 企画提案方式事業の推進

国の高齢者就業機会確保事業等の補助金に係る事業の「企画提案事業方式」等の新たな高齢者の就業システム実施に向けて、横浜市中期計画「横浜リバイバルプランⅡ・重点施策：こども未来戦略」に基づき、昨年度から実施している緑事務所と新たに磯子事務所において、「地域子育てサポート事業」を実施しました。この事業によって、子育てコーディネーターを配置し、発注者と会員とのニーズ相談等を行い、個人家庭などの子育て支援の推進を図った結果、「子育て支援サービス」については、受注件数が42件（対前年度比：+6.6%）、契約金額が236万円余（対前年度比：+13.2%）の増加となりました。

(4) 顧客満足度調査（隔年）の実施

平成22年8月2日から11月30日にかけて、顧客満足度調査を家庭と事業所に分けて行いました。平成20年度（前回）との増減結果を踏まえ、訪問活動等を通して顧客満足度の向上に努めています。

－ 調査概要と主な調査結果 －

	家庭（2,000世帯調査）	事業所（600社調査）
調査時期	平成22年8月2日～9月30日	平成22年9月1日～11月30日
調査方法	請求書に調査用はがき同封	就業機会創出員訪問活動聴取と郵送
回収数	708件	466件
回収率	35.4%	77.7%
主な調査結果 ()内は前回(20年度)との増減	(1) 仕事の出来ばえ 満足+おおむね満足:88.9% (+2.7) (2) 会員の言葉づかいや態度 満足+おおむね満足:86.8% (+2.0) (3) 事務所・職員の対応 満足+おおむね満足:77.4% (+1.6)	(1) 仕事の出来ばえ 満足+おおむね満足:81.3% (-0.1) (2) 会員の言葉づかいや態度 満足+おおむね満足:76.8% (+0.4) (3) 事務所・職員の対応 満足+おおむね満足:76.3% (+3.2)

(5) 会員によるPR活動

今年度はセンター設立30周年を記念し、地域貢献活動と会員間の交流イベントとして、市内主要駅前広場等において、会員によるボランティア清掃活動を行い、センター事業の知名度を図るとともに、昨年度に引き続き、区民まつり等地域イベントに参加し、チラシの配布等を行い、センター事業のPRを行いました。

また、自主的に会員の不足している職種や地域など、事務所毎に特徴を持ったPRチラシの作成・配布を実施し、センターの普及啓発に努めました。

(6) 独自事業の実施

独自事業は、会員の培った専門的技術や技能を講習会等の講師として役立て、併せて広く市民に還元していくことを目的に実施しています。

22年度についても引き続き、人気の高い中高年英語教室、IT講習等の開催を行うとともに、会員の自主的な運営による講習会として強化を図りました。

また、例年好評の「親子ふれあい教室」は、「そば打ち」と「パンづくり」を開催しました。

◇独自事業の実施状況（講師及び運営委員：実人員 50人）

	教室名	年間開催数(回)	延参加人員(人)	会場
①	実践書道	72	1,390	緑事務所
②	絵手紙	12	135	緑事務所
③	中高年英語教室	612	6,438	戸塚事務所
④	パンづくり(初級)	30	402	ワークプラザ調理室
	〃(中級)	30	480	
⑤	写真の撮り方(初級)	11	194	ワークプラザ作業室 他
	〃(中級)	11	250	
⑥	そば打ち(初級)	20	383	ワークプラザ作業室 他
	〃(中級)	8	134	
⑦	IT講習	161	2,247	ワークプラザ研修室
⑧	オカリナ教室	20	292	ワークプラザ研修室
⑨	夏休み・春休み親子ふれあい教室			ワークプラザ 作業室・調理室
	そば打ち	1	33	
	パンづくり	1	19	
	合計	989	12,397	

(7) IT社会に対応する受注活動

ホームページ掲載情報等の更新と「はまさポ」と連携したページの充実を図った結果、電子メールによる仕事の発注依頼として、今年度46件の発注申込件数があり、センターの事業PR、受注拡大等を図りました。

また、(社)全国シルバー人材センター事業協会のインターネットによる受注システム「シルバーしごとネット」により、22年度22件の受注がありました。仕事内容としては、結婚式招待状の毛筆宛名書き、植木の手入れ、襖の張替え、除草、事務所内の掃除等です。

5 会員増強等の就業体制の強化

(1) 会員の増強

多様化する発注者のニーズに的確かつ迅速に応えるため、昨年度から本部・事務所に常設した「就業相談コーナー」において、主に未就業会員の就業相談等を行い就業提供の促進を図るとともに、新たに会員登録を希望する高齢者に対し、本部・事務所で開催する「会員登録説明会」の希望に応じた期日と会場の参加促進や会員による口コミ、ホームページの掲載や講習会の開催等を通じての会員募集の啓発活動を行いました。

また、団塊の世代や会員が不足している地域・職種を中心とした会員募集の実施（チラシ配布等）による女性の入会促進など、重点項目に沿った会員の増強に努めました。

(2) 技能講習会・研修会の充実

会員の技術向上につながるセンター主催の技能講習会として、実施内容等の整備を図り、需要の多い緑地管理、D I Y講習会等を開催するとともに、国の補助事業であるS P事業（シニアワークプログラム）の活用を図り、各種講習会の開催をしました。

また、昨年度引き続き、植木業務会員の「安全啓発研修会」及びバリカン、チェーンソー・刈払機業務の「電動工具安全啓発研修会」への受講義務化により、安全啓発を図りました。

さらに、トラブル防止としての就業時マナー習得の接遇研修会を外部の専門講師により開催し、会員就業時のマナーとサービス向上等を図りました。多くの会員の参加を得るために、会場は本部と神奈川事務所、緑事務所で開催した結果、5日間で413人が受講しました。

◇講習会の実施状況

	講習名	実施期間	日数	参加人数（人）	会 場
技能	○緑地管理	5/6～5/21	1 1	2 1	こども植物園・児童遊園地
	○D I Y	6/17・18	2	1 9	ワークプラザ作業室
事務	○毛筆宛名書き	10/13～10/15	3	2 0	ワークプラザ研修室
合 計			1 6	6 0	

※ ○印は会員が講師を務める講習

◇研修会の実施状況

	講習名	実施期間	日数	参加人数（人）	会 場
植木	植木業務安全啓発	1/19	1	2 6	ワークプラザ研修室
除草	刈払機安全啓発 ○会員講師（一部対応）	3/11	1	1 6	横浜市環境活動支援センター
植木	電動工具安全啓発 ○会員講師（一部対応）	2/18	1	1 5	北部第一水再生センター
接 遇	接遇研修（A）	1/11	1	1 0 2	ウイリングよこはま研修室
	接遇研修（B）	1/13	1	7 1	老人福祉センターうらしま荘
	接遇研修（C）	1/18	1	6 2	緑区中山地区センター
	接遇研修（D）	1/25	1	9 8	ウイリングよこはま研修室
	接遇研修（E）	1/31	1	8 0	〃
小 計			5	4 1 3	
合 計			8	4 7 0	

※ ○印は会員が講師を務める講習

◇SP（シニアワークプログラム）講習会の実施状況

	講習名	実施期間	日数	参加人数（人）	会 場
除草	造園アシスタント ○前半2日間会員講師	10/12～10/15	4	22	こども植物園・児童遊園地
清掃	○ハウスマンテナンス	10/27～11/1の内	4	38	センター本部研修室・調理室
技能	○緑樹管理補助員	11/8～11/19の内	10	27	こども植物園・児童遊園地
合 計			18	87	

※ ○印は会員が講師を務める講習

(3) 就業機会提供等の推進

発注者等の理解のもと、仕事の分ち合い等を目的としたワークシェアリングの推進や一人でも多くの会員に就業機会の提供（ローテーション等）をすることで、適正就業の推進を図りました。

(4) 地域班・職群班活動の推進

センター事業を効率的に展開するため、会員による地域班、職群班及び班活動の役割の強化を図っていくことが重要になっております。引き続き、当センターとしての地域班・職群班活動の充実を図るとともに、会員が主体的に組織運営を行う「地域班・職群班」の構築に向けた検討を行ってまいります。

6 福祉・家事援助サービス業務の推進

(1) 福祉・家事援助サービスコーディネーターの活動

前年度に引き続き、22年度も福祉・家事援助サービスの受注拡大と体制整備を図るため、福祉・家事援助サービスコーディネーターを各事務所に2人、計12人を配置しました。

発注者のニーズに迅速・的確に応えるため、会員とのきめ細かな調整を行うとともに、相談対応や事務所単位での懇談会の開催等、会員への就業促進に努めましたが、消費の停滞等の影響により、前年度に比べ、契約金額と就業延日人員は、減少となりました。

◇福祉・家事援助サービスの実績

区 分		受注件数 (件)	契約金額 (千円)	就業延日人員 (人日)	主な受注例
福 祉	平成21年度	595	80,569	17,563	軽易な介護、付き添い、送迎等
	平成22年度	555	74,465	16,072	
家 事	平成21年度	7,570	124,454	39,171	家庭内清掃、炊事、洗濯、子育て支援等
	平成22年度	7,831	130,252	38,980	
平成21年度合計		8,165	205,023	56,734	
平成22年度合計		8,386	204,717	55,052	
対前年度比		102.7%	99.9%	97.0%	

(2) 各種講習会の開催

地域社会へのサービスと発注者の多様なニーズに対応するため、高齢者の一人暮らし等を対象とするDIY（小破修繕等）の講習会を開催しました。また、本部主催の福祉家事援助サービスコーディネーター会議（毎月1回開催）及びコーディネーターが中心となり、事務所単位の会員懇談会を開催し、就業情報（トラブル事例等）の共有や就業体制の強化を図りました。

(3) 子育て支援

企画提案方式事業（地域子育て支援事業）の推進として、地域子育て支援拠点との連携等情報交換を図り、保育園等の運営補助、共働き世帯等、子育て支援を必要とする団体や家庭に対し、地域社会の支援として、会員の豊かな経験を活かしたサービスの提供に努めました。

(4) 介護保険対象外業務の支援

介護保険の適用とならない高齢者世帯に対する家庭内清掃等の支援サービスや家事援助の受注開拓のため職員や就業機会創出員による各区役所、地域ケアプラザ、民間福祉施設等の訪問活動（チラシ等配架）やコーディネーターによる個人宅等へのリーフレットの配布などを行いました。

7 安全管理対策の強化

(1) 安全管理委員会活動

「事故ゼロ・安全管理の徹底」を目指し、センター役職員・会員で構成する本部・支部安全管理委員会が中心となって、会員就業現場の巡回視察、事故防止に向けた安全啓発活動や特に、植木の手入れ・刈払機の研修会の企画開催やスーパー内での作業等の事故分析と再発防止対策等に取り組みました。

◇安全管理委員会活動状況

事務所	委員会	巡回視察	安全講習会等の実施内容
本部	2回		○交通安全（運転適性検査・交通安全講習）
支部	69回	193回	○植木・除草（工具類の安全操作啓発等、薬剤の取扱い）

(2) 安全講習会・研修会の開催

今年度は、植木・除草（刈払機）の新規会員を対象にした「安全啓発研修会」及びバリカン・チェーンソー・刈払機使用の会員に対する「電動工具安全啓発研修会」を実施し、この研修会を受講義務化により、植木・除草（刈払機）作業の安全啓発を図りました。

また、交通災害防止を目的に、自動車の運転適性検査、神奈川県警による事務所単位の交通安全講習会を開催し、事故として多い就業途上（歩行中）の転倒防止として、躓き防止対策の講義等含め実施しました。

(3) 安全就業に向けた取組強化

前年度に引き続き、事務所単位の植木剪定班会議（職群班会議）や就業先の巡回視察時等に、作業時のヘルメットや安全ベルトの装着、梯子の安全な取扱い方等の遵守徹底を呼びかけました。

また、安全啓発チラシの配布、会報誌への啓発記事掲載、職群別会員懇談会等で事故発生状況報告等を行い、事故防止に向けた安全啓発を実施するとともに、事務所での就業先への巡回視察及び事故発生会員による事故報告書の提出の義務化等を実施し、事故発生件数の減少に努めました。

なお、植木剪定の新規会員対象の「安全啓発研修会」及び植木剪定・刈払機による除草の

新規会員対象の「電動工具安全啓発研修会」受講の義務化を実施したほか、特に事故の多い植木・除草（刈払機）の作業について、就業前の安全確認のための「植木作業前安全確認チェック表」と「刈払機作業手順書」を就業会員に配布を行い就業前の養生、機械点検等を義務づけ、安全管理の強化を図りました。

（４）事故発生状況

22年度は、安全就業に向け就業先への巡回視察・事故発生会員による事故報告書の提出の義務化や植木・除草（刈払機）の安全啓発等の取り組みを行った結果、事故発生件数は、前年度に比べ傷害事故は5件減少し、就業先巡回視察や研修会の義務化等により、植木、刈払機の事故が減少しましたが、23年1月に配布業務の就業していた会員の重篤事故（転落）が発生しました。事故発生後、全配布会員に対し、「安全啓発チラシ」を送付し、安全管理の徹底を周知しました。

傷害事故の中で、特に清掃作業や家事サービスの就業中事故が多く、事故発生率の高い職種等の巡回視察活動による安全啓発の強化を図っていきます。

なお、賠償責任事故は12件の減少となり、合計17件の減少。傷害と賠償を合わせた合計は49件となりました。

◇事故発生状況（件）／過去5年間

項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
会員傷害事故	49	52	35	39	34
賠償責任事故	25	29	29	27	15
合計	74	81	64	66	49

（５）シルバー保険への加入

会員の就業時や就業現場途上時における万一の事故に備え、昨年度に引き続き傷害・賠償責任事故を補償するシルバー人材センター総合保険に加入しました。

8 設立30周年記念事業の実施

センター設立30周年を記念して、30年間の歩みを振り返るとともに、会員主体による記念事業の参画として、「実行委員会」（会員6人・役職員2人）を設置し、主に作業部会（会員16人・役職員9人）により事業の企画等を行い、発注者や市民に日頃の感謝や会員同士の連帯感、センター事業の知名度等を高めることを目的として「記念式典」を開催や「記念誌」の発行、「ボランティア清掃活動」を実施しました。

また、その他の記念事業として、「市長と会員との座談会」や会報誌「記念号」の発行等を行いました。

（１）「市長と会員との座談会」の開催

日時 平成22年8月20日（金）午後1時～午後2時

会場 市庁舎応接室

テーマ 「シルバー人材センター30年の歩みと

これからの地域社会への貢献活動について」

参加者 横浜市長、横浜市経済観光局市民経済労働部長他

センター会員10人（就業・活動分野別）

その他 概要は、設立30周年「記念誌」及び第88号会報誌「記念号」に掲載

(2) 記念式典の開催

記念標語 「身につけた 技と知識と経験が 社会に生きるシルバーパワー」

日 時 平成22年10月2日(土) 13時～16時

会 場 港南区民文化センター「ひまわりの郷」

参加者 376人

実施内容 ◇記念表彰

・発注者の部：民間企業5社、個人家庭5世帯

・会員の部：15人

・記念標語の部：会員3人(最優秀1人、優秀2人)

◇アトラクション

・横浜市職員落語愛好会2人による「落語」

・ボランティア活動グループ「ヨコハマ・シルバースターズ」会員による楽器演奏

(3) 記念誌の発行

タイトル 「^{みき}樹」

(大きく伸びた樹木から射し込む光輝く日差しは30年を迎え、さらに輝くシルバー人材センターの未来を表現)

内 容 ◇30年間の事業の歩み

◇会員の就業や自主活動、センター事業の紹介

◇「市長と会員との座談会」の内容掲載等

発行部数 1,200部

(4) ボランティア清掃活動の実施

実施日 平成22年9月29日(水)～平成22年10月26日(火)

清掃場所 市内主要駅前広場等(15か所実施)なお、西・中・磯子区は荒天のため中止

参加会員数 309人(男性：224人、女性：85人)

その他 参加会員にアンケート調査を実施し、既存のボランティア活動グループによる「街の美化清掃」の増員等拡充を図りました。

9 財政基盤の強化と業務執行体制の見直し

(1) 「基本計画2016」第1期(2007年～2011年の5年間)の執行管理

22年度は、「基本計画2016」第1期の4年目と横浜市との「協約」の5年目の最終年度を迎え、特にセンターの自主・自立を目指した独自財源確保や事務事業の見直し等の課題対応等を中心に執行管理を行いました。

(2) 経営基盤の確立と「年会費」制度・事務費率改定の推進

より一層のセンターの自主・自立的な経営基盤の確立及び事務費の確保や事務事業の効率的な執行と見直しを検討するため、センター管理職により構成した「事務費率改定・事務事業の見直し等のプロジェクト」における検討結果を踏まえ、徹底した事務事業の見直しをはじめ、センターの財政基盤を安定的に持続していくために、平成13年度から7%としていた事務費率を22年4月から10%に改定するとともに、「年会費」制度の円滑な実施に努め、財源確保等を図りました。

(3) 請求センター業務の廃止に伴う業務見直し

21年12月に「事務事業の見直し等プロジェクト」を立ち上げ、請求センター業務のあり方について検討した結果、費用対効果等の理由により、平成22年3月31日をもって廃止しました。なお、今後は各事務所において、各月の請求事務処理等を行い、事務所機能の強化とともに、人件費及び職員の適正人員配置等効率的な業務執行など、経費節減を図りました。

(4) 新公益法人制度への移行準備

平成23年7月上旬の「公益財団法人」への移行認定の申請に向け、(社)神奈川県シルバー人材センター連合会の指導助言等や各関係機関等の動向、移行に関する情報等の収集調査を図り、新公益法人移行後の定款や評議員選定委員の選任、役員報酬規定等諸準備を進めました。

10 個人情報の保護並びに法令遵守

会員が顧客先における就業時の個人情報の保護・管理等について、接遇研修会や各事務所での職群別会員懇談会の開催時に個人情報保護に関する説明等により、会員に徹底するとともに、新規登録希望者や会員自身の個人情報保護の強化を行いました。

また、当センターが保有する情報管理や顧客先に提供する就業会員に関する情報についても、適正な保護及び管理の徹底をするとともに、適正就業の推進確保など就業に関連する法令等について、職員及び会員へ遵守の徹底を図りました。

なお、センターのホームページ等を通じて、経営及び事業の実績など、積極的に経営情報の開示を行いました。

11 ボランティア活動の支援

会員が永年培った技術や技能を活かしながら、地域の貢献及び会員が主体的に活動するボランティアの支援を行いました。ボランティアの内容は、「演芸」、「福祉」、「観光ガイド」、「街の美化」の4つの分野で活動を実施し、福祉施設、公共的施設等を中心に、延べ1,136人が活動しました。

特に22年度は、当センターが設立30周年を迎え、これを記念し地域社会への貢献、シルバーセンターのPR、会員間の交流を図るイベントとして、9月～10月にかけて市内15か所の駅前広場等の「ボランティア清掃活動」を行いました。

◇グループ別活動実績

グループ名		主な活動場所	参加延人数
演芸	楽器演奏	地域ケアプラザ、老人福祉施設、地区センター、病院等	255
	手品等	老人福祉施設、リハビリテーション施設等	29
福祉	介護補助	老人福祉施設、リハビリテーション施設等、大豆戸・本牧原万騎が原・東戸塚・港南中央・港南台、各地域ケアプラザ	369
	そば打ち	地域ケアプラザ等	12
観光ガイド		伝説まさかりが淵の汲沢めぐり、旧東海道戸塚宿への散策、山重忠の終焉の遺跡と帷子川沿いの散策、新港埠頭「今一つの歴史を歩く」、西区「いにしえ」散策等	58
街の美化		横浜駅東口周辺、みなとみらい21地区等	104
30周年記念事業		市内15か所の駅前広場等「ボランティア清掃活動」	309
延参加会員数計			1,136

12 普及啓発活動の推進

効率的・効果的な各種広報媒体の活用を図り、事業PR活動を展開しました。また、団塊の世代等の入会促進を図るため、ホームページの定期的な更新（お仕事情報等）や（社）神奈川県シルバー人材センター連合会のシニア活力元気ネット「シニア就業支援プログラム」事業の連携により、高齢者を対象に「会員による就業体験等セミナー」を本部で開催し、センター事業のPR等充実を図りました。

（1）広報媒体を活用したPR

取材による「センター設立30周年記念式典」の開催内容等をミニコミ誌に掲載・活用し、センター事業のPRを図りました。

◇ミニコミ誌の活用 タウンニュース

（2）ポスターの掲出とリーフレット等の配布

前年度と同様に、センター事業の普及・啓発を目的に、市営バスや市営地下鉄の車内及び駅構内、市内公共施設等にPR用ポスターを制作し、掲出しました。

また、総合パンフレット及び会員募集用リーフレット・家庭向けリーフレットを就業機会創出員のPR活動等で活用するとともに、地域や職種に限定した会員募集用リーフレットやチラシの配布を行いました。

◇ポスターの掲出状況

掲出先	掲出期間	掲出部数
地下鉄駅	平成22年10月15日～10月21日	37枚
地下鉄車内	〃	111枚
市バス車内	〃	900枚
公共機関等	〃	200枚

◇リーフレット作成部数

- ・受注開拓用家庭向けリーフレット 97,000部
- ・会員募集用リーフレット 60,000部

（3）インターネットの活用

ホームページを更新し、センターのしくみ、「はまさぽ」の情報提供、会員登録や仕事発注の方法、会員への就業提供（お仕事情報等）、技能講習や独自事業の開催状況、ボランティア活動の実施状況等を紹介し、分かりやすい広報活動に努めました。

（4）区民まつり等地域イベントへの参加

各区で開催される区民まつり等に参加し、センター会員のもつ多彩な技術・技能の実演発表や手芸品バザー、PRグッズの配布等を通じて、受注開拓や会員募集等センター事業のPR活動に努めました。

【参加区】港北、西、中、保土ヶ谷、金沢、青葉、戸塚、栄（計8区）

【その他】「うらしま荘」うらしま祭（神奈川区立町）

「ハーモニーみどり」ふれあいまつり（緑区中山町）

13 無料職業紹介事業の実施

臨時的・短期的及び軽易な業務に係わる雇用を希望する高年齢退職者のための無料職業紹介事業を実施しました。

◇平成22年度の実績

・求人延事業所数 29件（前年度35件） ・就職人数 23人（前年度21人）

14 会報誌の発行

会報「シルバーセンター」は、会員編集委員の主体的な企画、取材及び編集活動の成果物として、定期発行を行っていますが、22年度もセンター事業の進捗状況等や会員の諸活動を紹介する情報誌として、全会員、発注者、区役所、地区センター等関係機関へ配布しました。

なお、会報誌は年3回発行し、企業広告の有料広告掲載を募り、印刷経費等の軽減を図りました。

◇会報の発行実績

内容 \ 号数	第86号	第87号	第88号
発行月	平成22年4月	平成22年9月	平成23年1月
発行部数	16,000部	16,000部	17,000部

15 会員の自主活動への支援

(1) 会員交流会、サークル活動への支援

◇事務所での開催状況

事務所 \ 内容	交流会開催数	サークル団体数
神奈川	10回	5団体
南	12回	4団体
保土ヶ谷	7回	5団体
磯子	12回	3団体
緑	10回	7団体
戸塚	11回	4団体
合計	62回	28団体

(2) 「創作展」の開催

書道、絵画、写真、工芸等全事務所の同好会員で構成される「創作展」は、第27回の開催を迎え、1,781人の来場者を得て盛会に開催されました。

◇第27回創作展

会 期	平成23年2月1日(火)～2月6日(日)
会 場	横浜市民ギャラリー 1階
出展会員数	107人(他1団体)
出展作品数	123点

16 理事会・評議員会の開催

平成22年度は、次のとおり理事会、評議員会を開催しました。

(1) 理事会

月 日	場 所	議 案 内 容
平成22年度第1回 理事会 平成22年4月1日	書面表決	第1号議案 理事長の選任について
平成22年度第2回 理事会 平成22年5月26日	シルバー人材センター 本部研修室	第1号議案 平成21年度収支予算の追加補正について 第2号議案 平成21年度事業報告について 第3号議案 平成21年度決算について 第4号議案 評議員の選任について
平成22年度第3回 理事会 平成22年12月20日	シルバー人材センター 本部研修室	第1号議案 新公益法人移行後の最初の評議員選任に係る「評議員選定委員」の選任について 第2号議案 新公益法人移行後の定款(案)について
平成22年度第4回 理事会 平成23年3月28日	シルバー人材センター 本部研修室	第1号議案 平成22年度収支補正予算について 第2号議案 平成23年度事業計画について 第3号議案 平成23年度収支予算について 第4号議案 新公益法人移行後の最初の評議員候補者の推薦について 第5号議案 新公益法人移行後の役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程について

(2) 評議員会

月 日	場 所	議 案 内 容
平成 22 年度第 1 回 評議員会 平成 22 年 5 月 26 日	シルバー人材センター 本部研修室	第 1 号議案 平成 21 年度収支予算の追加補正について 第 2 号議案 平成 21 年度事業報告について 第 3 号議案 平成 21 年度決算について 第 4 号議案 理事の選任について
平成 22 年度第 2 回 評議員会 平成 22 年 12 月 20 日	シルバー人材センター 本部研修室	第 1 号議案 新公益法人移行後の最初の評議員選任に係る「評議員選定委員」の選任について 第 2 号議案 新公益法人移行後の定款（案）について
平成 22 年度第 3 回 評議員会 平成 23 年 3 月 25 日	シルバー人材センター 本部研修室	第 1 号議案 平成 22 年度収支補正予算について 第 2 号議案 平成 23 年度事業計画について 第 3 号議案 平成 23 年度収支予算について 第 4 号議案 役員の選任について 第 5 号議案 新公益法人移行後の最初の評議員候補者の推薦について 第 6 号議案 新公益法人移行後の最初の役員の選任について 第 7 号議案 新公益法人移行後の役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程について

17 関係機関との連絡調整

センターの円滑な事業運営を図るため、横浜市等行政関係機関、(社) 全国シルバー人材センター事業協会、(社) 神奈川県シルバー人材センター連合会等との連携を深め、事業の円滑な運営に努めました。